近現代詩（永訣の朝）　＊＊

次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

けふのうちに
とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ
（A あめゆじゆとてちてけんじや）
B うすあかくいつさう陰惨な雲から
みぞれはびちよびちよふつてくる
（あめゆじゆとてちてけんじや）
C 青い蕈菜のもやうのついた
これらふたつのかけた陶椀に
おまへがたべるあめゆきをとらうとして
わたくしは D まがつたてつぽうだまのやうに
このくらいみぞれのなかに飛びだした
（あめゆじゆとてちてけんじや）
蒼鉛いろの暗い雲から
みぞれはびちよびちよ沈んでくる
ああとし子
死ぬといふいまごろになつて
わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを
おまへはわたくしにたのんだのだ
ありがたうわたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから
（あめゆじゆとてちてけんじや）
はげしいはげしい熱やあえぎのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ
　銀河や太陽、気圏などとよばれたせかいの
そらからおちた雪のさいごのひとわんを……
…ふたきれのみかげせきざいに
みぞれはさびしくたまつてゐる
わたくしはそのうへにあぶなくたち
雪と水とのまつしろな二相系をたもち
すきとほるつめたい雫にみちた
このつややかな松のえだから
わたくしのやさしいいもうとの
E さいごのたべものをもらつていかう
わたしたちがいつしよにそだつてきたあひだ
みなれたちやわんのこの藍のもやうにも
もうけふおまへはわかれてしまふ
F （Ora Orade Shitori egumo）
ほんたうにけふおまへはわかれてしまふ
あぁあのとざされた病室の
くらいびやうぶやかやのなかに
やさしくあをじろく燃えてゐる
わたくしのけなげないもうとよ
この雪はどこをえらばうにも
あんまりどこもまつしろなのだ
あんなおそろしいみだれたそらから
このうつくしい雪がきたのだ
（うまれでくるたて
G こんどはこたに わりやのごとばかりで
くるしまなあよにうまれてくる）
おまへがたべるこのふたわんのゆきに
わたくしはいまこころからいのる
どうかこれが天上のアイスクリームになつて
おまへとみんなとに H 聖い資糧をもたらすやうに
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

問一　傍線部A「（あめゆじゆとてちてけんじや）」について、次の各問いに答えなさい。

1　この言葉は、どこの地方の方言と考えられるか。県名で答えなさい。

2　「あめゆじゆ」と同じものを指す名詞を二語、詩中から抜き出して答えなさい。

問二　傍線部B「うすあかくいつさう陰惨な雲」とほぼ同義の表現を、詩中から抜き出して答えなさい。また、雲についてのこのような表現がもたらす効果として適切な説明を、次の**ア**～**エ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　どのような悲しみの果てにも、必ず希望の光がうっすらと射してくるということを暗示している。

イ　妹との決別の悲しみにうちひしがれる作者の心情を、暗い雲に託して表現している。

ウ　雲の不吉なさまと対照的な、みぞれの清浄さを印象づけている。

エ　自分がこれだけ打ちひしがれているのに、無関係に明るい雲への憤りを表している。

問三　傍線部C「青い蕈菜の……陶椀に」の記述から、どのようなことがうかがえるか。次の説明文の空欄部**a**には、詩中の語句（十一字）を、空欄部**b**・**c**には、後の**ア**～**ク**の中から当てはまる語を選び、それぞれ記号で答えなさい。

　二つのそろいの陶椀は、「わたくし」と妹が（　**a**　）ことを物語っており、かけた陶椀を大切に使ってきた二人の生活の（　**b**　）を感じさせる。それだけに、妹の最後の依頼をそれに盛ろうという「わたくし」は、（　**c**　）に妹との決別を自覚しなければならないのである。

問八	問七	問六		問五	問四	問三	問二	問一
作者		2	1			a		1
作品						b		2
						c		

学年	組	番号	氏名	得点

ア　やすらぎ　イ　つましさ　ウ　ひよわさ　エ　つらさ　オ　曖昧　カ　積極的　キ　受動的　ク　明確

問四　傍線部**D**「まがつたてつぽうだまのやうに」とは、どのような様子を指すのか。「まがつた」と「てつぽうだま」の二点の直喩を過不足なく説明しなさい。

問五　傍線部**E**「……もらつていかう」とあるが、作者の自然へのどのような姿勢がうかがえるか。次の**ア**～**オ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　自然に対し、無力な自分を卑下する姿勢。
イ　自然を謙虚に敬う敬虔な姿勢。
ウ　自然の偉大さに恐れを抱く様子。
エ　清冽な自然の産物に、驚嘆する姿勢。
オ　自然の清純に対し、人間の不純を嘆く様子。

問六　傍線部**F**「(Ora Orade Shitori egumo)」について、次の各問いに答えなさい。

1　この言葉の意味を標準語に直して答えなさい。

2　ここだけローマ字表記になっているのはなぜだと考えられるか。次に引用した「松の針」（「永訣の朝」とほぼ同時に作られた詩）の抄出も参考にして、作者の心情を踏まえて説明しなさい。

ほんたうにおまへはひとりでいかうとするか／わたくしにいつしよに行けとたのんでくれ／泣いてわたくしにさう言つてくれ（「松の針」より）

問七　傍線部**G**「わりやのごとばかり」に対比する表現を、詩中から抜き出して答えなさい。

問八　この詩の作者名を答えなさい。また、この作者の詩集名を次の**ア**～**オ**の中から選び、記号で答えなさい。

ア　「測量船」　**イ**　「一握の砂」　**ウ**　「銀河鉄道の夜」　**エ**　「春と修羅」　**オ**　「山羊の歌」

近現代詩（永訣の朝）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、１　作者についての基礎知識の確認。　２　語句の理解。問二、語句の理解と内容の理解。問三、内容の理解。問四、表現の内容確認。問五、内容の理解。問六、方言の意味確認と心情の理解。問七、文脈からの語句把握。問八、漢字の読み。問九、作者と詩集の確認。

☆解答例と配点

問一　１　岩手県　〈２点〉　２　みぞれ・あめゆき　〈２点×２〉

問二　蒼鉛いろの暗い雲　**ウ**〈３点×２〉

問三　ａ　いつしよにそだつてきた　ｂ　**イ**　ｃ　**ク**　〈３点×３〉

問四　気持ちを乱して、あわてて勢いよく飛び出した様子　〈５点〉

問五　**ウ**〈３点〉

問六　１　私は私で独り行きます　〈５点〉

２　「わたくし」は妹にいっしょに行けと泣いて頼んでほしいと思っていたので、一人で行くという妹の決意が、外国語のように、うつろな音声としてしか聞こえてこなかった感じを表現しているから。　〈８点〉

問七　おまへとみんなとに　〈４点〉

問八　作者＝宮沢（澤）賢治　作品＝**エ**　〈２点×２〉

計50点

近現代詩（永訣の朝）　＊＊＊

次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

けふのうちに
[A]とほく へいつてしまふわたくしのいもうとよ
みぞれがふつておもてはへんにあかるいのだ
（[B]あめゆじゆとてちてけんじや）
うすあかくいつさう陰惨な雲から
みぞれはびちよびちよふつてくる
（あめゆじゆとてちてけんじや）
青い蕈菜のもやうのついた
これらふたつのかけた陶椀に
おまへがたべるあめゆきをとらうとして
わたくしはまがつたてつぽうだまのやうに
このくらいみぞれのなかに飛びだした
（あめゆじゆとてちてけんじや）
蒼鉛いろの暗い雲から
[C]みぞれはびちよびちよ沈んでくる
ああとし子
死ぬといふいまごろになつて
[D]わたくしをいつしやうあかるくするために
こんなさつぱりした雪のひとわんを
おまへはわたくしにたのんだのだ
ありがたう[E]わたくしのけなげないもうとよ
わたくしもまつすぐにすすんでいくから
（あめゆじゆとてちてけんじや）
はげしいはげしい熱やあえぎのあひだから
おまへはわたくしにたのんだのだ
　銀河や太陽、気圏などとよばれたせかいの
そらからおちた雪のさいごのひとわんを……
…ふたきれのみかげせきざいに
みぞれはさびしくたまつてゐる
わたくしはそのうへにあぶなくたち
雪と水とのまつしろな二相系をたもち
すきとほるつめたい雫にみちた
このつややかな松のえだから
わたくしのやさしいいもうとの
さいごのたべものをもらつていかう
わたしたちがいつしよにそだつてきたあひだ
みなれたちやわんのこの藍のもやうにも
もうけふおまへはわかれてしまふ
（Ora Orade Shitori egumo）
ほんたうにけふおまへはわかれてしまふ
あぁあのとざされた病室の
くらいびやうぶやかやのなかに
やさしくあをじろく燃えてゐる
[E]わたくしのけなげないもうとよ
この雪はどこをえらばうにも
あんまりどこもまつしろなのだ
あんなおそろしいみだれたそらから
このうつくしい雪がきたのだ
（[F]うまれでくるたて
　こんどはこたにわりやのごとばかりで
　くるしまなあよにうまれてくる）
おまへがたべるこのふたわんのゆきに
わたくしはいまこころからいのる
どうかこれが天上のアイスクリームになつて
おまへとみんなとに聖い資糧をもたらすやうに
わたくしのすべてのさいはひをかけてねがふ

問一　傍線部**A**「とほく」とはどこか。詩中から該当する語句を示しなさい。

問二　傍線部**B**「あめゆじゆとてちてけんじや」を標準語に直しなさい。また、この言葉はその後でも繰り返されているが、なぜか。その理由を簡潔に述べなさい。

問三　傍線部**C**「みぞれはびちよびちよ沈んでくる」とあるが、なぜ沈んでくるという表現をしたのか。説明しなさい。

問四　傍線部**D**とあるが、「わたくし」が妹の依頼を、自分を「いつしやうあかるくするため」と考えたのはなぜか。詩中の表現から、その根拠となる部分を引用して、簡潔に説明しなさい。

問五　詩中で傍線部**E**「わたくしのけなげないもうとよ」という呼びかけは二回出てくるが、妹のどのような点がけなげなのか。答えなさい。

問六　傍線部**F**について、次の各問いに答えなさい。

1　「うまれでくるたて……うまれてくる」という思いの根底には、仏教のどのような考え方があるか。漢字四字で答えなさい。

2　妹のこの言葉は「わたくし」にとってどのような役割を果たしたか。簡潔に答えなさい。

問六		問五	問四	問三	問二		問一
2	1				理由	標準語	

学年
組
番号
氏名
得点

近現代詩（永訣の朝）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一、文脈からの語句理解。問二、方言の意味確認とリフレインの意味把握。問三、イメージによる語句把握。問四、内容の理解。問五、内容の理解。問六、世界観についての確認と内容の理解。

☆解答例と配点

問一　天上　〈2点〉

問二　標準語＝雨雪をとってきてください。
理由＝妹の声が「わたくし」の心の中で繰り返し呼び起され、その願いと意味をかみしめているから。　〈5点×2〉

問三　空を見上げる「わたくし」に向かって、雪が真下に落ちてくる様子を表現したため。　〈8点〉

問四　妹が求めた雪は「銀河や太陽　気圏とよばれた」宇宙からもたらされたものであり、「わたくし」の枠を超えた広い視野からの祈りを導くものであったから。　〈8点〉

問五　死ぬ間際まで兄の一生を明るくすることを思いやりながら、たった一人で死んでいく覚悟を伝えたことをけなげと捉えた。　〈8点〉

問六　1　輪廻転生　〈7点〉
2　みんなのために「わたくし」のさいわいのすべてをかけて生きていこうという決意を促した。　〈7点〉

計50点